

大八木換地分遺跡

— 倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —



高崎市教育委員会
株式会社 三金
有限会社 毛野考古学研究所

(財)日本地図センター発行「明治前期測量2万分の1カラー複式彩色地図」
「群馬県高崎市・藤岡市北部・多野郡吉井町北部地区902(5班12号1測板)」
を1/8,000に縮小し一部加工して掲載

例 言

1. 本書は、倉庫建設工事に伴う大八木換地分遺跡^{おおやぎかんちぶんいせき}の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市大八木町字換地分3000番地3、3000番地4に所在している。
3. 本発掘調査および報告書の作成は、高崎市教育委員会・株式会社三金・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指示・指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、株式会社三金が負担している。
5. 発掘調査は、矢島浩（高崎市教育委員会）の指導・監督のもと小此木真理（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 発掘調査における基準点測量、平面・断面図測量は小出拓磨・石塚伸輝（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
7. 発掘調査における航空写真撮影は小出拓磨が担当した。
8. 発掘調査・報告書作成は、平成29年4月10日～平成29年8月31日の期間で実施した。
9. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「699」である。
10. 本書の執筆については、Iを矢島浩（高崎市教育委員会）、それ以外を小此木真理（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
11. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
12. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。
【発掘調査】 篠崎英男 塚越昇 根岸清 眞下重雄 宮澤秀昭
【整理作業】 下條真美代 山口昌子 吉村光恵
13. 発掘調査から報告書の刊行に至る過程で下記の諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略） 伊藤明宏 長澤行秀 中村岳彦 大和ハウス工業株式会社

凡 例

1. 挿图中的の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付して表示した。遺物観察表の計測値で用いた単位はcm、gである。
3. 土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修2006）を用いた。
4. 本所掲載の第1図は高崎市発行の1/2,500「高崎市都市計画基本図」、の第2図は国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」・「宇都宮」、第3図は平成24年国土地理院発行の1/25,000電子地形図「高崎」・「前橋」・「下室田」・「富岡」を一部加工して使用した。
5. 本書では主に関連するテフラ（火山噴出物）の呼称として次の略号を用いる。
As - A：浅間A軽石（天明三年[1783年]） As - B：浅間B軽石（天仁元年[1108年]）
Hr - FP：榛名一ツ岳伊香保テフラ（6世紀中葉） As - C：浅間C軽石（3世紀末）
Hr - FA：榛名一ツ岳洪川テフラ（5世紀末～6世紀初頭）
As - YP：浅間-板鼻黄褐色軽石（13,000 - 14,000 y, B, P）

目次

例言

凡例

目次

I 調査に至る経緯	1	V 遺構と遺物	5
II 地理的・歴史的環境	2	1 A s - B 一次堆積層下 水田跡	
1 地理的環境	2	2 A s - B 混入土層下 耕作痕	
2 歴史的環境	2	3 A s - B 混入土層下 1号溝	
III 調査の方法と経過	4	VI まとめ	8
1 調査の方法		参考文献	
2 調査の経過		報告書抄録	
IV 基本層序	4		

図表目次

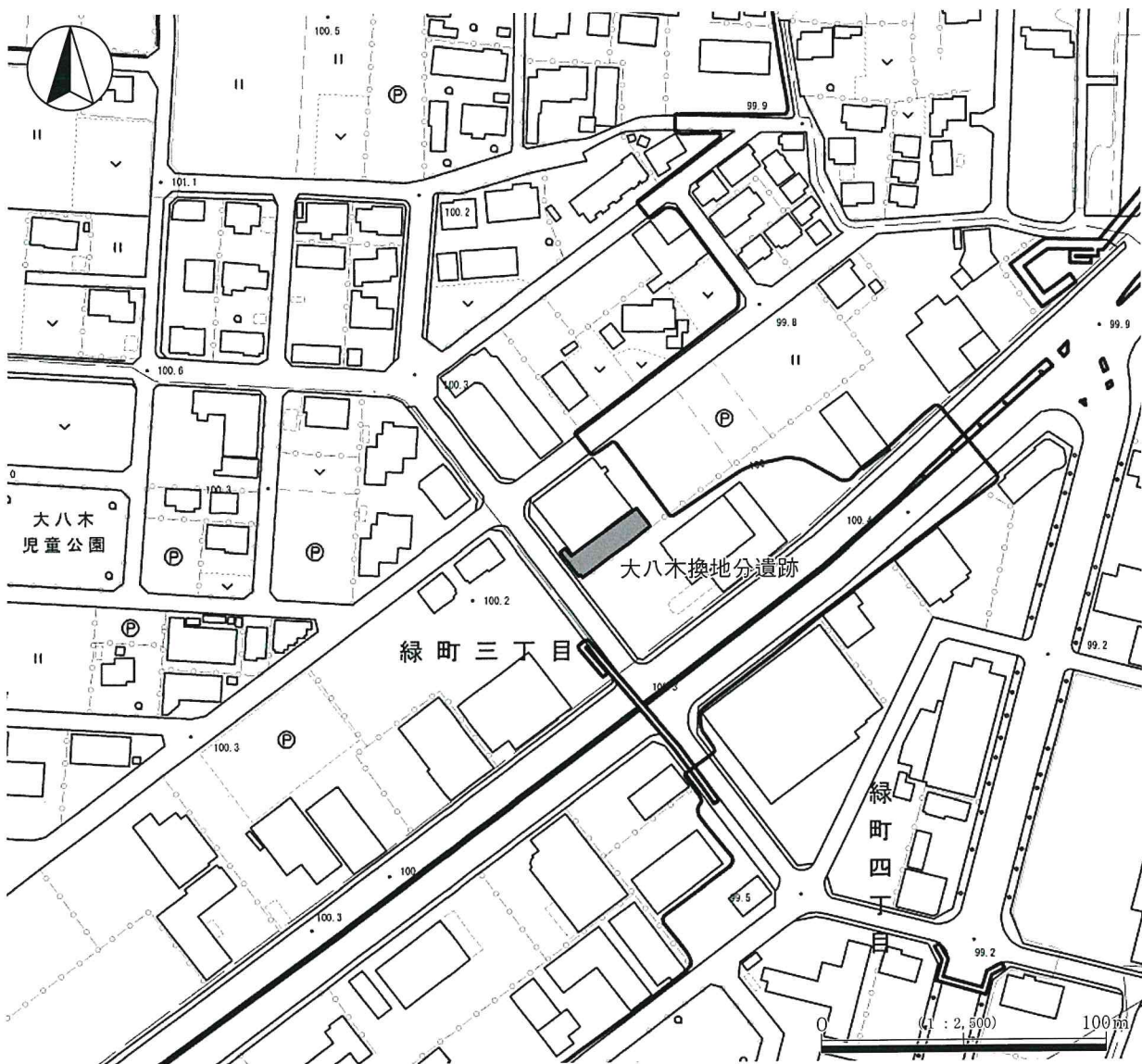
第1図 調査区位置図	1
第2図 遺跡の立地	2
第3図 周辺遺跡	3
第4図 基本土層図	5
第5図 大八木換地分遺跡全体図	6
第6図 A s - B 一次堆積層下水田跡 畦畔断面図・エレベーション図	7
第7図 A s - B 混入土層下耕作痕 断面図・エレベーション図	7
第8図 大八木町周辺の条里地割と用水路	10

写真図版目次

P L . 1 全景 (南西から)	P L . 3 A s - B 層下水田	2号畦畔 (北から)
全景 (北から)	A s - B 層下水田	3・4号畦畔 (北西から)
	A s - B 層下水田	2号畦畔断面 (南から)
P L . 2 全景 (北西から)	A s - B 層下水田	3・4号畦畔断面 (北西から)
垂直写真 (右上が北)	A s - B 混入土層下	2・3号耕作痕
A s - B 層下水田 3~5号畦畔 (北西から)		1号溝 (北東から)
A s - B 層下水田 4号畦畔 (北西から)	A s - B 混入土層下	4号耕作痕 (南から)
	K - K' : 基本土層1 (南から)	
	G - G' : 基本土層3 (南から)	

I 調査に至る経緯

平成 29 年 1 月、土地所有者株式会社三金から、高崎市大八木において計画している宅地造成店舗建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である 10 C 01 遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 1 月 30 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 2 月 24 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古代から中世の水田に伴う畦畔を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「大八木換地分遺跡」とした。同年 2 月 2 日に文化財保護法に基づく届出が提出された。発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 29 年 4 月 3 日に株式会社三金と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に株式会社三金・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第 1 図 調査区位置図

II 地理的・歴史的環境

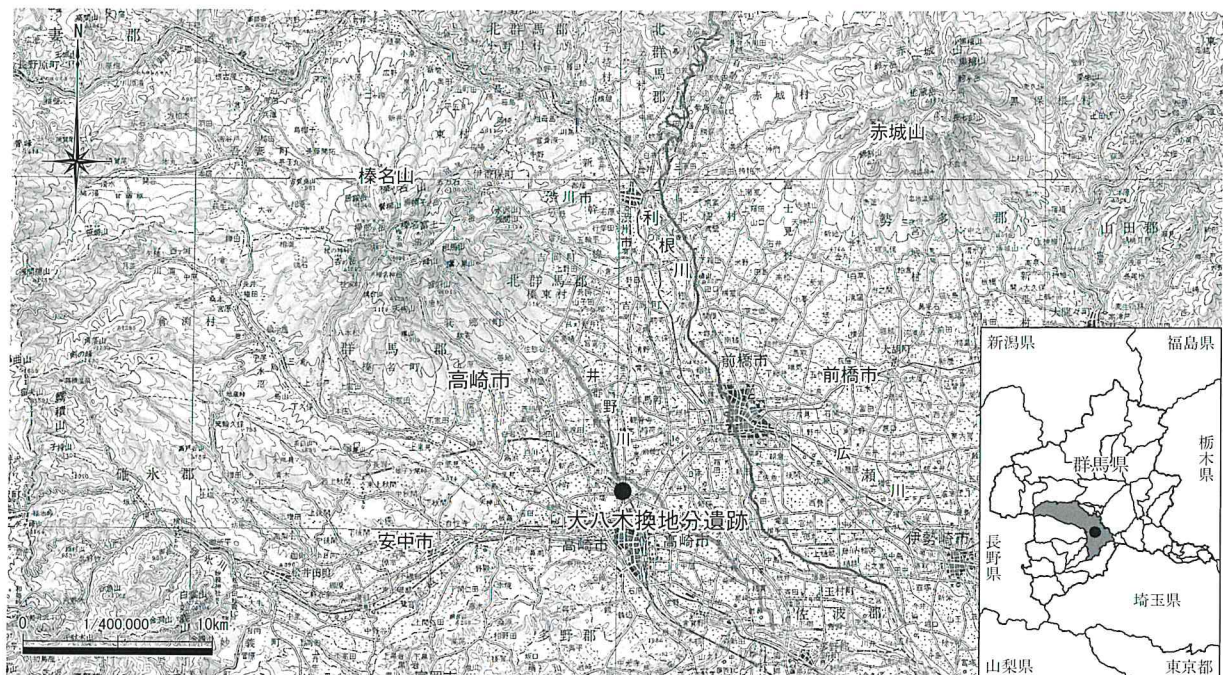
1 地理的環境

群馬県は関東平野の北西部に位置し、埼玉県・栃木県・茨城県・長野県と隣接する。本遺跡の所在する高崎市は群馬県のほぼ中央部にあたり、北西に榛名山、北東に赤城山が位置する。榛名山の東南麓には扇状地地形が形成されており、相馬ヶ原扇状地と呼称される。この相馬ヶ原扇状地は、南東に向かって緩やかに傾斜してゆき、扇端部で高崎・前橋台地とつながる。高崎・前橋台地は井野川によって分けられ、井野川左岸を高崎台地、右岸を前橋台地と呼ぶ場合もある。これらの台地には井野川やその他の中川河川によって自然堤防や後背湿地が形成されている。また、井野川に沿って、井野川泥流堆積面という低地帯が広がる。

本遺跡の立地する大八木町は、相馬ヶ原扇状地の扇端部と井野川河成段丘の境付近にあたり、井野川右岸の後背湿地に立地する。

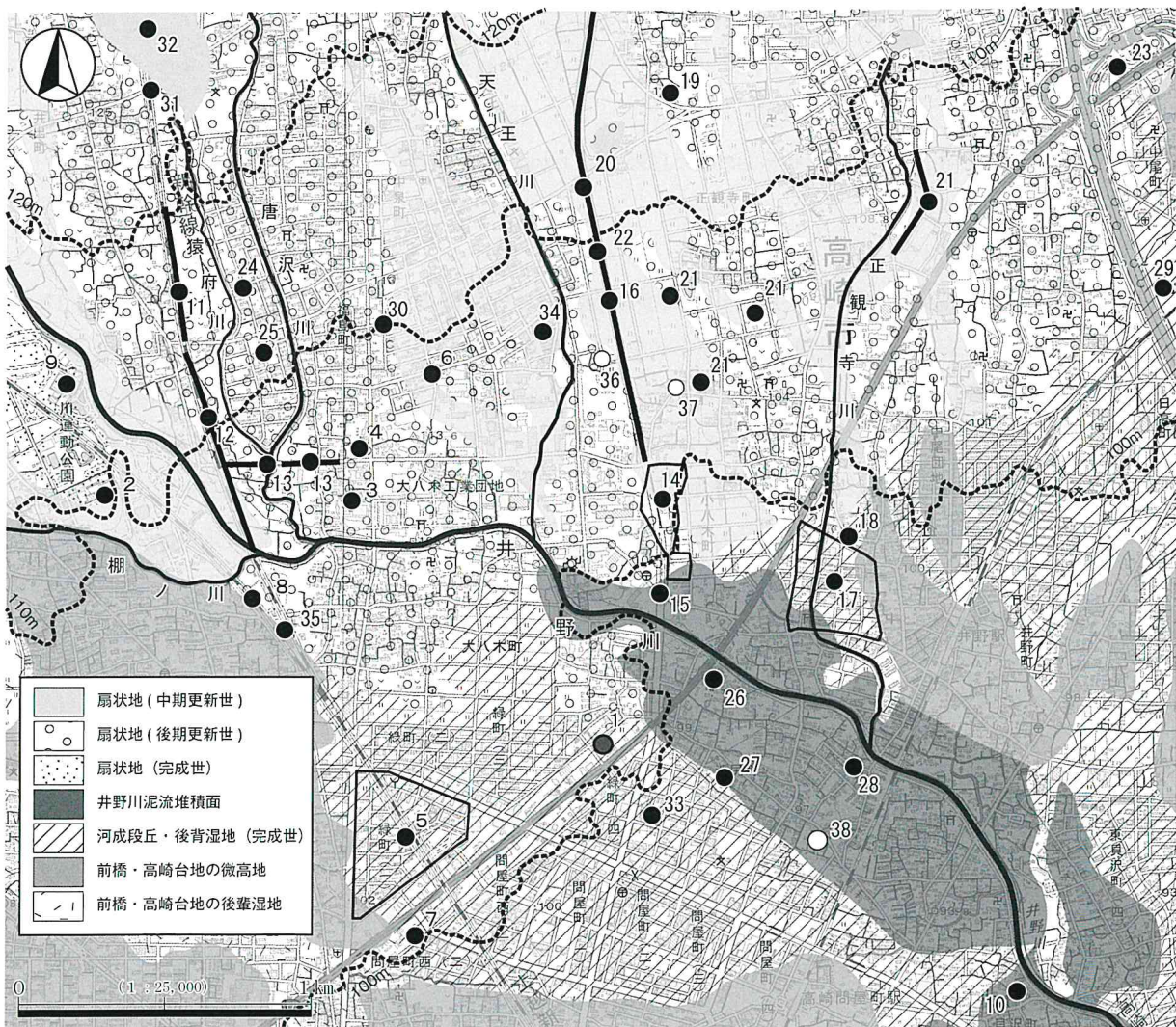
2 歴史的環境

集落に関わる遺跡としては、縄文時代前期で熊野堂遺跡Ⅰ・Ⅱ（11・12）、中期では雨壺遺跡（13）で阿玉台式期、大八木箱田池遺跡（6）で勝坂～加曾利E式期、後期では正観寺遺跡群（21）や雨壺遺跡で住居跡が確認されている。弥生時代では、中期後半に該当する遺跡が多く、浜尻A地点遺跡（26）・浜尻B地点遺跡（27）、浜尻旭貝戸遺跡（28）、大八木富士廻り遺跡（7）、熊野堂遺跡、雨壺遺跡などがある。後期は、正観寺遺跡群、正観寺西原遺跡（22）、小八木志志貝戸遺跡（16）、諸口遺跡（34）、西浦北遺跡（24）、西浦南遺跡（25）などが該当する。古墳時代前期では、熊野道遺跡・雨壺遺跡、中～後期は正観寺遺跡群、豪族居館跡とされている三ツ寺遺跡Ⅰ・Ⅱ（31・32）などがある。奈良・平安時代では、大八木伊勢廻遺跡第1次・第2次（3・4）・大八木屋敷遺跡（8）・大八木箱田池遺跡・中尾遺跡（23）・西浦北遺跡（24）など大八木町周辺で多くの集落遺跡が確認されている。大八木屋敷遺跡では、掘立柱建物跡が検出されており、これは『上野国交替実録帳』にみられる「八木院」に比定されている（高崎市2000）。



第2図 遺跡の立地

本遺跡に関連する遺跡では、井野川流域に火山灰や軽石に被覆された水田跡や畠跡が多くみられる。古墳時代では、御風呂遺跡（9）・芦田貝戸遺跡（2）・大八木屋敷遺跡でAs-C・Hr-F A・Hr-F Pに被覆された複数面の水田跡が確認されている。融痛寺遺跡（35）や大八木富士廻り遺跡（7）ではHr-F A洪水層下の水田跡やHr-F Pで埋没した水路などが確認されている。平安時代では、大八木町周辺のほとんどの遺跡でAs-B水田が確認され、北東に位置する日高遺跡（29）ではAs-C下・As-B下にわたる2時期の水田跡が確認されている。なかでも大八木水田遺跡（5）・小八木遺跡I・II（14）・小八木志志貝戸遺跡（16）・小八木葦貝戸遺跡（17）・正観寺遺跡群・日高遺跡では、調査された水田跡の畦畔から方格線の復元がなされ、条里地割に即した水田耕作が明らかとなった。また近年の発掘調査では、本遺跡東側に位置する緑町四丁目遺跡（33）でAs-B層下水田の大畦畔が部分的に確認されている。



※地形・地質分類図は早田勉による群馬県史 通史編I 附図「群馬県主要地域の地形分類図」(早田勉)を元に作成した。

1. 大八木換地分遺跡
2. 芦田貝戸遺跡
3. 大八木・伊勢廻第1次
4. 大八木・伊勢廻第2次
5. 大八木水田遺跡
6. 大八木箱田池遺跡
7. 大八木富士廻り遺跡
8. 大八木屋敷遺跡
9. 御風呂遺跡
10. 貝沢I遺跡
11. 熊野堂遺跡
12. 熊野堂II遺跡
13. 熊野堂遺跡第III地区・雨壺遺跡
14. 小八木遺跡I
15. 小八木井野川遺跡
16. 小八木志志貝戸遺跡
17. 小八木葦貝戸遺跡
18. 小八木村東遺跡
19. 菅谷遺跡
20. 菅谷石塚遺跡
21. 正観寺遺跡群(Ⅲ)
22. 正観寺西原遺跡
23. 中尾遺跡
24. 西浦北遺跡
25. 西浦南遺跡
26. 浜尻A地点遺跡
27. 浜尻B地点遺跡
28. 浜尻旭貝戸遺跡
29. 日高遺跡
30. 福島遺跡
31. 三ツ寺I遺跡
32. 三ツ寺II遺跡
33. 緑町四丁目遺跡
34. 諸口遺跡
35. 融痛寺遺跡
36. オトウカ山古墳
37. 権現塚古墳
38. 浜尻天王山古墳

第3図 周辺遺跡

Ⅲ 調査の方法と経過

1 調査の方法

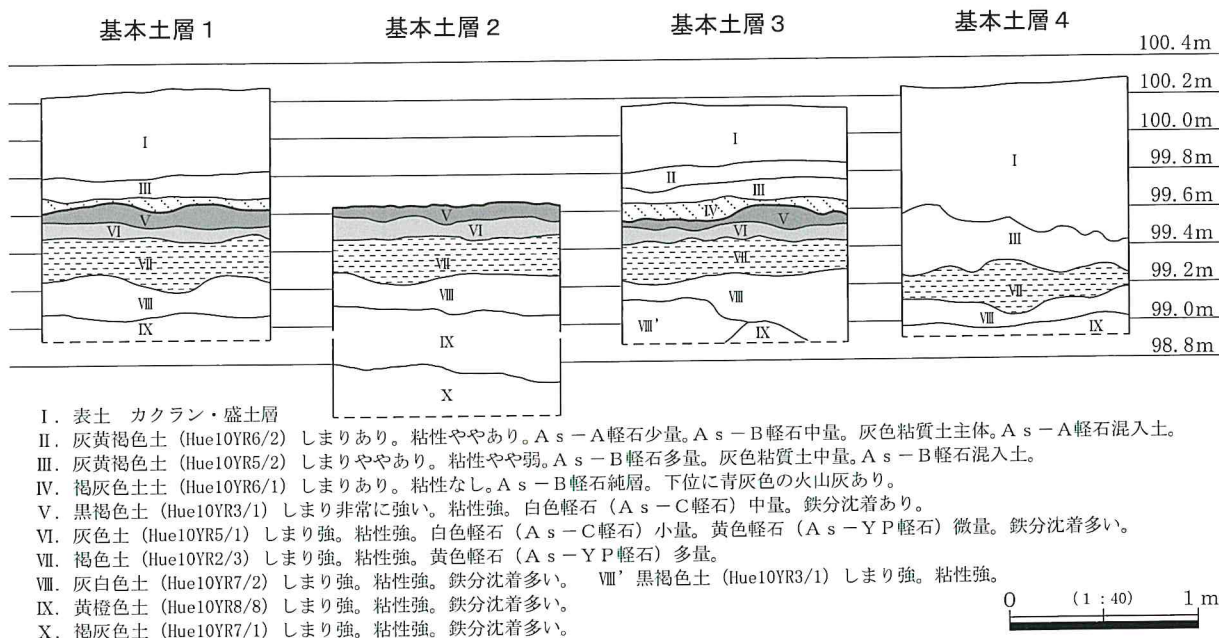
高崎市教育委員会が実施した試掘調査結果や周辺遺跡の状況から、調査対象地内には浅間B軽石（以下、A s - Bと記す）混入土層下・A s - B一次堆積層下の水田跡が検出されることが予測されていた。このため、2時期の遺構確認面を想定して、表土からA s - B混入土層（Ⅲ層）とA s - B一次堆積層（Ⅳ層）上面までを、重機（0.45㎡バックホー）を用いて段階的に掘り下げた。その結果、A s - B一次堆積は調査区南西側にのみ残存しているのを確認した。このため西側はA s - B層（Ⅳ）上面、東側はA s - B混入土層（Ⅲ層）中位までを重機で掘り下げた。その後は、人力によってA s - B混入土層及びA s - B一次堆積層の除去作業を実施し、A s - B降下前後の水田面と畦畔に留意しつつ検出作業にあたった。遺構の図化は、トータルステーションによる平面測量と手実測による断面測量（縮尺1/20）を併用して行った。遺構写真は、35mmモノクロネガフィルム・35mmカラーリバーサルフィルムのほか、デジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 40D）を使用して撮影した。遺構検出終了後にドローンに（DJI PHANTOM 2 Vision +）による空中写真撮影を実施した。報告書は主に Adobe Illustrator CS6・InDesign CS6 を使用して作成した。

2 調査の経過

4月7日：調査準備。近隣への挨拶回り。調査区周囲の木杭の撤去作業。発掘調査区の設定。4月10日～12日：重機による表土掘削を開始。簡易トイレ・発掘機材の搬入。4月11日：雨天のため調査区水没。以後、継続的に調査区内を水中ポンプで排水しながら掘削作業を行う。4月12日～15日：作業員を導入し、人力によるA s - B層の除去作業を開始。A s - B層下とA s - B混入土層下の遺構検出を行う。4月15日：調査区全体精査後、自社ドローンによる空中写真撮影を実施。平面図及び断面図測量を行う。4月17日：各遺構の断ち割り調査に着手する。トレンチを設置し、掘り下げを行う。高崎市教育委員会文化財保護課矢島氏の立ち会いのもと現地調査終了検査を実施。4月18日：トレンチ調査の継続。作業終了後、発掘機材撤収。4月19日：平面図・断面図測量作業。4月20・21日：調査区内の排水及び埋め戻し。簡易トイレの撤収。

Ⅳ 基本層序

今回の調査では、遺構断面と基本土層観察用のトレンチを8か所に設置し、土層断面図の記録を行った。そのうち4か所で確認した層序関係を基本土層1～4として掲載した（第4図）。セクションラインと基本土層の対応は、基本土層1（K - K'）、基本土層2（G - G'）、基本土層3（F - F'）、基本土層4（J - J'）である。基本土層は、I層：表土、II層：A s - A混入土、III層：A s - B混入土、IV層：A s - B一次堆積、V層：黒褐色粘質土、VI層：灰色粘質土、VII層：褐色粘質土、VIII層：灰白色粘質土、IX層：黄橙色粘質土、X層：褐灰色粘質土である。調査区南西端から中央までの範囲で、A s - Bの一次堆積（IV層）を検出した。残存するIV層の厚さは2～15cmである。IV層には火山灰堆積のユニット構造は認められないものの、IV層断面とV層上面で青灰色の火山灰を検出したことから、一次堆積と判断した。調査区中央から北東側にかけての範囲ではA s - B一次堆積層は残存していない。また、V層にA s - C、VI・VII層にA s - Y Pと推測される軽石粒を含んでいる。今回の調査では、H r - F A・H r - F Pやそれに伴う泥流層及び洪水堆積物と想定される堆積は確認できなかった。土層説明における含有物の量は、多量（50～30%）・中量（25～15%）・少量（10～5%）・微量（1～3%）と表記した。



第4図 基本土層図

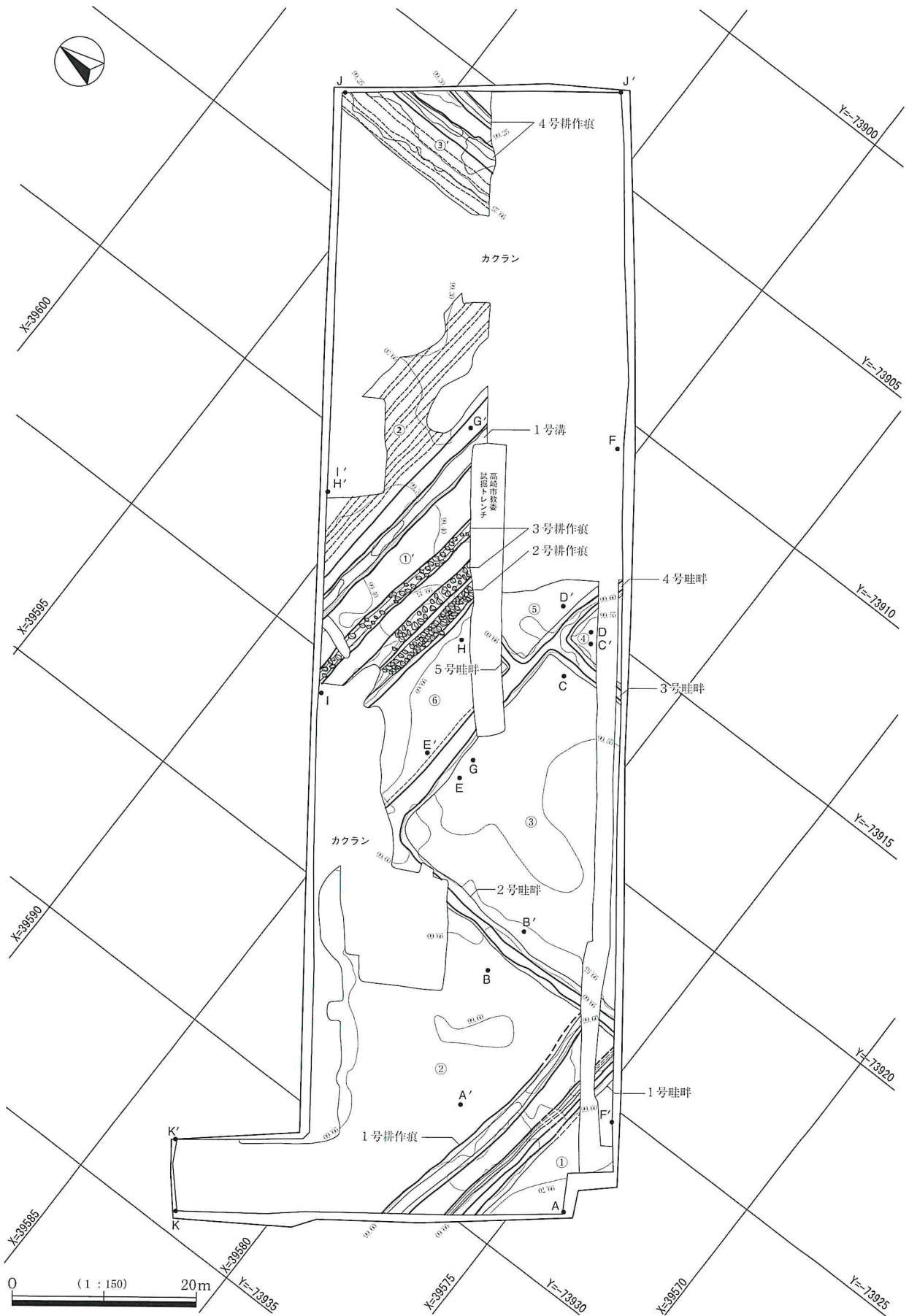
V 遺構と遺物

1 A s - B 一次堆積層下水田跡 (第5・6図)

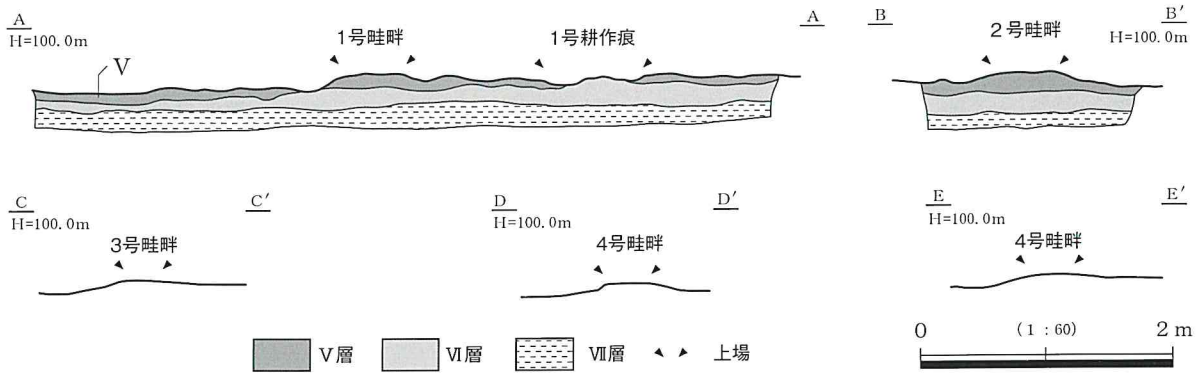
残存状況：調査区西側から中央にかけて A s - B 一次堆積が 2 ~ 15cm 残存しており、その直下から水田跡が検出された。A s - B 一次堆積は調査区南西端の水田区画①で最も良好に残存していた。**畦畔と規模**：5 条確認されており、2・3・5号畦畔が南北、1・4号畦畔が東西方向に走行する。2・3・5号畦畔は N - 1° - E、1・4号畦畔は N - 85° - W を指す。1号畦畔は上端幅 30 ~ 56cm、下端幅 50 ~ 65cm、各区画との比高は①で 5.7 ~ 9.5cm、②で 0.9 ~ 4.6cm を測る。2号畦畔は上端幅 15 ~ 29cm、下端幅 40 ~ 62cm、各区画との比高は②で 0.6 ~ 5.0cm、③で 3.0 ~ 10cm を測る。3号畦畔は上端幅 25 ~ 39cm、下端幅 53 ~ 64cm、各区画との比高は③で 5.8 ~ 11.3cm、④で 7.1 ~ 7.5cm、⑤で 0.7 ~ 3.7cm を測る。4号畦畔は上端幅 19 ~ 47cm、下端幅 46 ~ 66cm、各区画との比高は③で 5.9 ~ 12.6cm、④で 8.0 ~ 8.9cm、⑤で 5.9 ~ 12.6cm を測る。5号畦畔は上端幅 19 ~ 22cm、下端幅 39 ~ 42cm、各区画との比高は③で 7.4 ~ 7.8cm、⑤で 1.4 ~ 4.4cm、⑥で 1.8 ~ 2.6cm を測る。なお、検出した畦畔に水口は確認されなかった。**水田区画と地形**：6 区画が確認されたものの、全容を把握できる区画はない。各区画の標高は、① 99.539 ~ 99.577 m ② 99.588 ~ 99.649 m ③ 99.498 ~ 99.565 m ④ 99.540 ~ 99.544 m ⑤ 99.574 ~ 99.604 m ⑥ 99.592 ~ 99.633 m である。区画の標高は、⑥ → ② → ⑤ → ③ → ④ → ① の順に低くなり、各区画内における標高の最高位と最低位の差は 3.0 ~ 6.7cm である。**水田面の状態**：全体的に浅い凹凸がみられる。水田面には A s - B 一次堆積に伴う青灰色の火山灰と鉄分の沈着がみられる。**遺物**：出土しなかった。基本土層 1 トレンチのカクランから剥片が 1 点出土した。

2 A s - B 混入土層下耕作痕 (第5・7図)

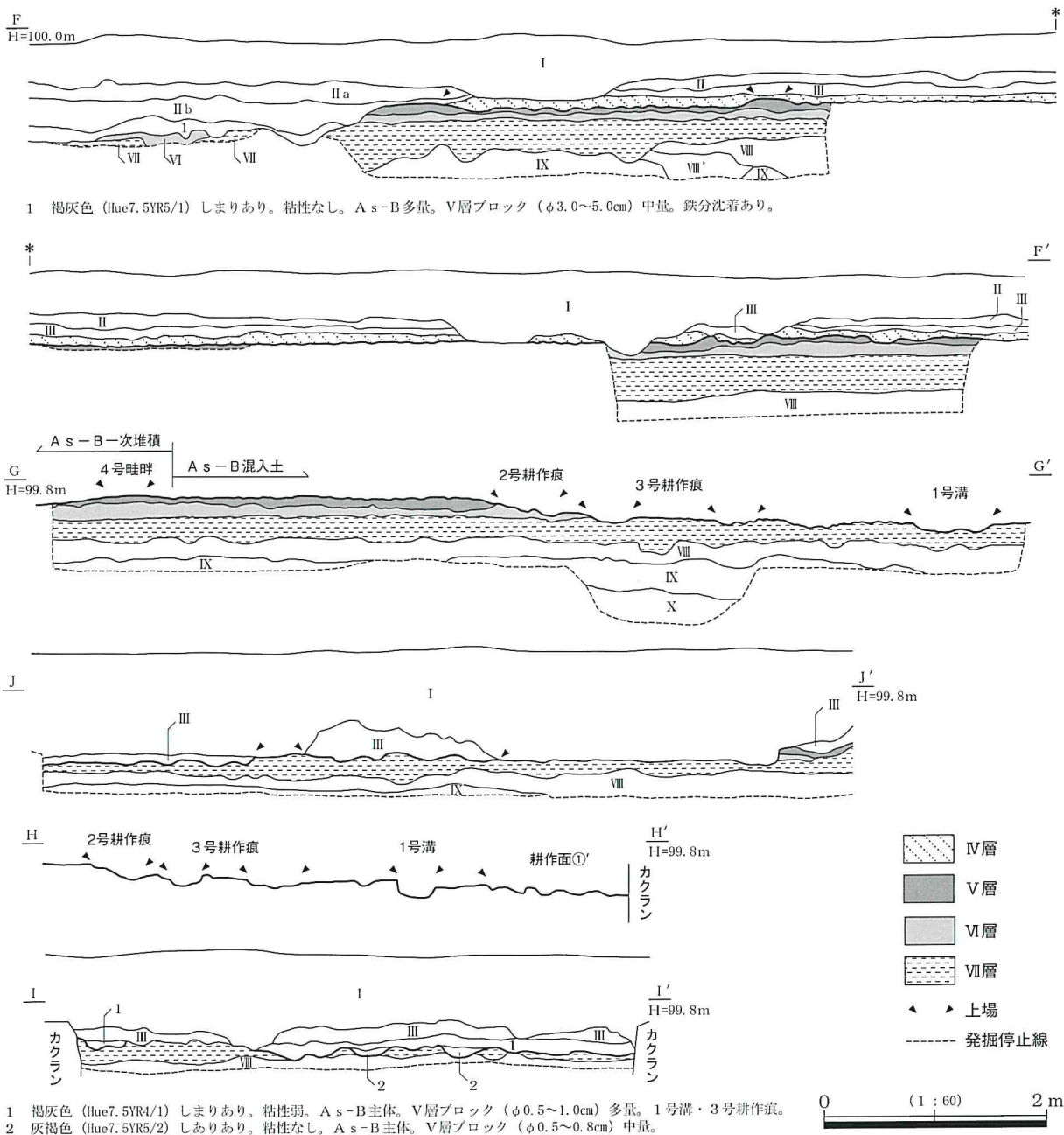
位置と残存状況：調査区西端と北東側で、A s - B 混入土によって埋没する列状の耕作痕と耕作面が検出された。4号畦畔を境界に北東側では A s - B 一次堆積は残存していない。**走行方向**：1・2・3号耕作痕が東西、4号耕作痕が南北方向に走行する。1・2・3号耕作痕は N - 84° - W、4号耕作痕は N - 3° - E を



第5図 大八木換地分遺跡全体図



第6図 A s - B 一次堆積層下水田跡 畦畔断面図・エレベーション図



第7図 A s - B 混入土層下耕作痕 断面図・エレベーション図

指す。**規模**：1号耕作痕は検出幅36～56cm、耕作痕底位と耕作面の比高は①'で14～17cm、②'で24～27cm、③'で28～31cmを測る。2号耕作痕は検出幅42～48cm、耕作痕底位と耕作面の比高は①'で1～8cm、②'で11～18cm、③'で15～22cmである。3号耕作痕は検出幅30～41cm、耕作痕底位と耕作面の比高は①'で1～2cm、②'で2～11cm、③'で6～15cmを測る。4号耕作痕は検出幅20～32cm、耕作痕底位と耕作面の比高は①'で-23～27cm、②'で-13～17cm、③'で-10～13cmを測る。**埋没状態**：As-B層とV層の混合土によって埋没する。埋没土内にはⅢ層よりAs-Bの混入が多くみられ、鉄分の沈着も認められた。1号・2号耕作痕はAs-Bが主体の土で埋没しており、3・4号耕作痕はV層ブロックの混入がやや多くみられた。**耕作面の状態**：As-B混入土層により覆われていた範囲①'・②'・③'では、全面で列状の耕作痕が検出された。これらの耕作痕は①'・②'では東西、③'では南北方向に走行しており、①'・②'は2・3号耕作痕、③'は4号耕作痕と並走している。**工具痕の状態**：2～4号耕作痕の工具痕は、平面形状が円形・楕円形・不整形、断面形状が碗型・半月状を呈する。耕作面①'～③'にみられる工具痕は、一定の方向性をもって1条ないし2条が並列している。As-B層下水田面で全体的にみられる凹凸とは異なり、規則性を持つ。**遺物**：出土しなかった。

3 As-B混入土層下1号溝（第5・7図）

位置：調査区北東側、3号耕作痕の北側で検出した。**走行方向**：東西方向に走行しており、2～4号耕作痕と同じ軸方向である。**規模**：1号耕作痕は検出上幅43～57cm、下幅24～43cm、残存深度16～19cmである。耕作面との比高は①'で19cm、②'で15cm、③'で6cmである。**埋没状態**：3号列状耕作痕・耕作範囲②'と同様のV層ブロックを含むAs-B混合土によって埋没している。**工具痕の状態**：1号溝の底面には工具痕が確認できた。明瞭な形状は捉えることが難しいが、平面形状は円形・楕円形・不整形、断面形状が浅い碗型を呈する。耕作痕と同様に2列1単位で掘り込まれたものと想定される。**遺物**：出土しなかった。

VI まとめ

今回の調査では、As-B降下前後の2時期にわたる水田跡があることが明らかになった。ここでは本遺跡における水田耕作の特徴と、大八木町周辺の条里地割と用水系について現段階で分かった点を述べ、まとめとしたい。

大八木換地分遺跡におけるAs-B降下前後の水田耕作 調査区南東側ではAs-B一次堆積に埋没する水田跡（以下、As-B下水田）、調査区北東側ではAs-B混入土層によって埋没する（以下、As-B混土下）耕作範囲と溝を確認した。これら2時期の遺構は2号耕作痕を境界ラインとし、2号耕作痕より南西側にはAs-B一次堆積層が残存していた。As-B下水田は、南北・東西方向を主軸とした5条の小畦畔とそれらによって囲まれた6つの水田区画をもつものである。As-B下水田の区画内の標高は北東から南西方向に1区画ずつ低くなる。今回の調査範囲では水口は検出されていないが、各区画の標高と地形の特徴から北西から南東方向に向かって湛水していた工程が推測される。

As-B混土下の耕作痕については、水田耕作に伴う痕跡なのか区画溝としての性格をもつものなのかを判断する確証は得られていない。しかし、①As-B下水田の畦畔と同様の軸を持って方形の区画があること②As-B混土下の耕作範囲①'～③'が列状の耕作痕より低い標高であることなどから、これらの耕作痕は水田耕作に伴うものと判断した。このことから、1～4号耕作痕は畦畔を構築する「畝立て」の際に両脇を溝状に掘り込んだ耕作痕で、いわゆる「擬似畦畔」であると捉えたい。また、同一方向で数条が並列あ

るいは重複する要因は、複数回の畦畔の造り直しや造り替えが行われた可能性が推測される。なお、1号耕作痕はA s - B下水田の1号畦畔に沿って走行しているため、畦畔の造り替えが類推される。また、A s - B下とA s - B混土下の遺構面では、A s - B混土下が全体的に低い。この高低差については課題を残すが、現段階では水田耕作において生じたものと類推しておきたい。

以上のことから、本遺跡ではA s - B降下前後にわたって水田耕作が行われた可能性を有する。A s - B下水田は南北・東西方向の地割に基づいており、これはA s - B降下後も踏襲される。ただし、4号畦畔と2～4号耕作痕及び1号溝の位置関係から、A s - B降下後の水田復旧において小畦畔の改変や移動が行われた可能性が高い。

大八木町周辺の条里地割 大八木町周辺では、大八木水田遺跡や緑町四丁目遺跡などでA s - B下水田が確認されており、条里地割の坪を区画する大畦畔が検出されている。本遺跡の南西に位置する大八木水田遺跡では、A s - B下において東西・南北方向の大畦畔とそれらに沿った配水用の水路が検出され、条里地割に基づいたA s - B下水田の土地区画が明らかにされた(高崎市1979・岡田1991)。

1971年の高崎市都市計画図に大八木水田遺跡の大畦畔から復元した一町四方(109m)のグリッドを重ねてみると、現地表面の地割に重なるラインを部分的に捉えることができる(第8図)。さらに、一町四方(坪)内部の長地型とみられる地割も部分的に残存している。また、大八木水田遺跡の南北方向の大畦畔はN - 2° - Eを指し、緑町四丁目遺跡で検出された大畦畔もほぼ同じ傾きをもつ。本遺跡で検出した畦畔は小畦畔のみであるが、南北畦畔はN - 1° - Eの傾きをもっている。以上のことから、本遺跡におけるA s - B降下前後の水田では、条里地割に基づいた水田開発が行われていた可能性を推測したい。

大八木町周辺の用水路 高崎市都市計画図に表記のある用水路は早瀬川から取水されており、西から東へ流れたのち南へ分岐している。南へ分岐した水路は西側の下小鳥町一帯には導水せずに南北方向に走行し、そこから東側の大八木町・浜尻町一帯へ枝分かれして流水する。大八木町・浜尻町の水路は基本的に北から南、西から東方向へと流水しており、北側を流れる井野川に排水する場所もみられる。地形的にみると、下小鳥町は井野川の形成した微高地、大八木町・浜尻町一帯は後背湿地に属する。また、大八木水田遺跡で確認された1号水路と2号水路は、現代の用水路の位置とほぼ一致し、一町四方の推定グリッドに重なる用水路も捉えることができる。以上のように、1970年代の灌漑用水は早瀬川から取水され、大八木町周辺の後背湿地を受益地としている。また、部分的に古代の条里地割と一致する用水路も捉えることができる。このことから、A s - B降下前後(12世紀代)における大八木町周辺の用水系は、条里地割に沿って配され、それらはずかかながら現代に踏襲されている可能性を示唆しておきたい。

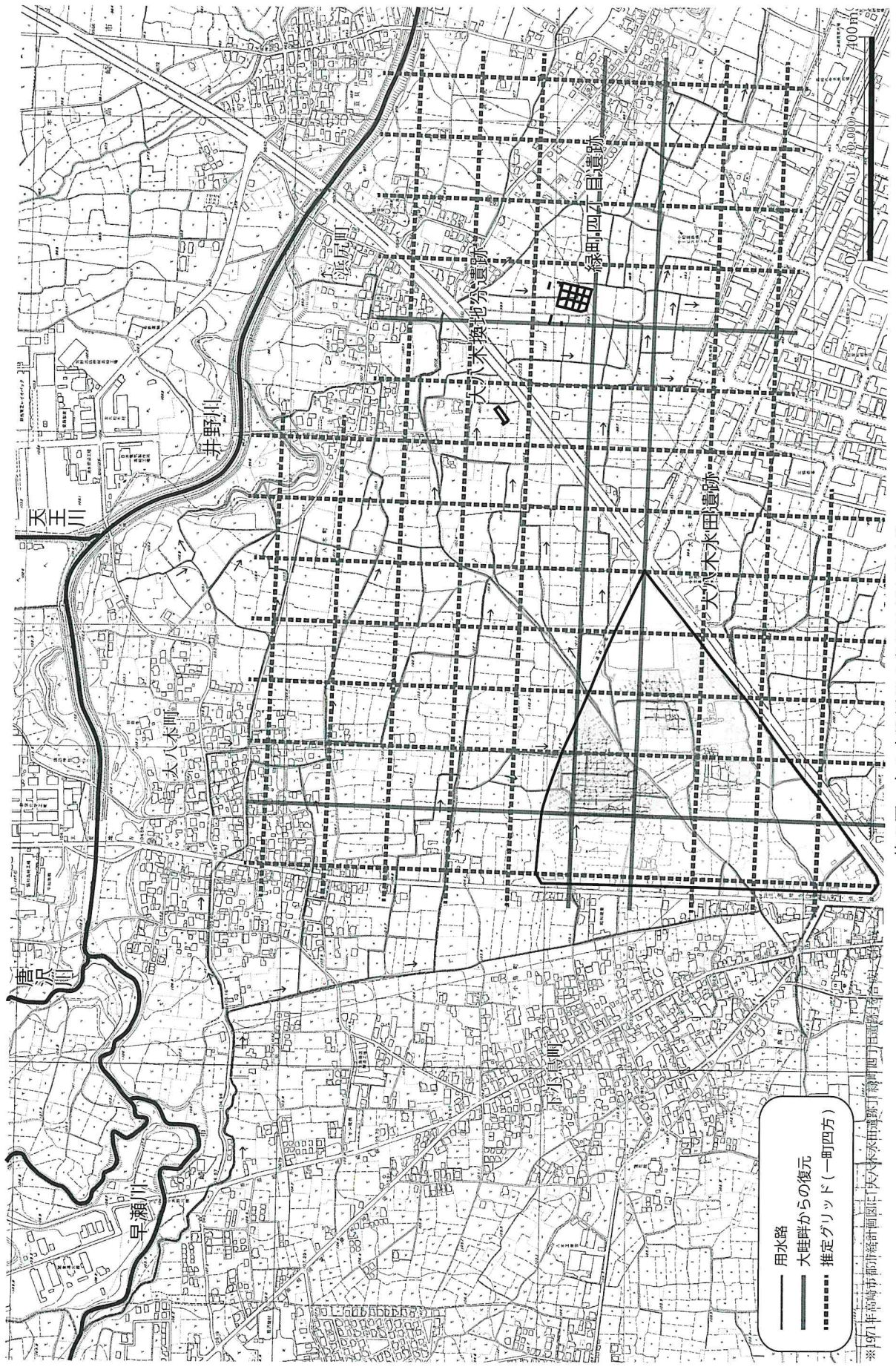
主な参考文献

発掘調査報告書

【大八木遺跡調査報告書(Ⅰ)】1979 高崎市文化財調査報告書第8集 高崎市教育委員会
【日高遺跡(Ⅰ)】1979 高崎市文化財調査報告書第10集 高崎市教育委員会
【大八木水田遺跡】1979 高崎市文化財調査報告書第12集 高崎市教育委員会
【小八木遺跡(Ⅱ)】1980 高崎市文化財調査報告書第15集 高崎市教育委員会
【日高遺跡(Ⅱ)】1980 高崎市文化財調査報告書第17集 高崎市教育委員会
【岩田貝戸遺跡Ⅱ】1980 高崎市文化財調査報告書第19集 高崎市教育委員会
【正観寺遺跡群(Ⅲ)】1981 高崎市文化財調査報告書第21集 高崎市教育委員会
【小八木垂貝戸遺跡】1981 高崎市文化財調査報告書第25集 高崎市教育委員会
【浜尻遺跡】1981 高崎市文化財調査報告書第26集 高崎市教育委員会
【浜川芦田貝戸遺跡】1994 高崎市文化財調査報告書第134集 高崎市教育委員会
【緑町四丁目遺跡】2004 高崎市文化財調査報告書第197集 スナガ環境測設株式会社
【大八木・伊勢廻遺跡2】2010 高崎市文化財調査報告書第271集 株式会社測研
【小八木村東遺跡】2014 高崎市文化財調査報告書第330集 スナガ環境測設株式会社
【浜尻貝戸遺跡】2002 高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第84集 高崎市遺跡調査会
【熊野堂遺跡第Ⅲ地区・雨壺遺跡】1984 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
【大八木屋敷遺跡】1995 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
【小八木志志貝戸遺跡】2001 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
【南部拠点地区遺跡群No.6】2011 前橋市教育委員会ほか
【南部拠点地区遺跡群No.10】2014 前橋市教育委員会ほか

図書・文献

【新編 高崎市史 資料編 原始古代1】1994 高崎市史編さん委員会
【群馬県史 通史編1 原始古代1】1990 群馬県史編さん委員会
岡田隆夫1991「特論 上野国の条里制」『群馬県史 通史編2 原始古代2』群馬県史編さん委員会
【関東条里の研究】2015 関東条里研究会
工楽晋通1991『水田の考古学』東京大学出版会
金田章裕2000『地割の起源』『古代史の論点① 環境と食料生産』小学館



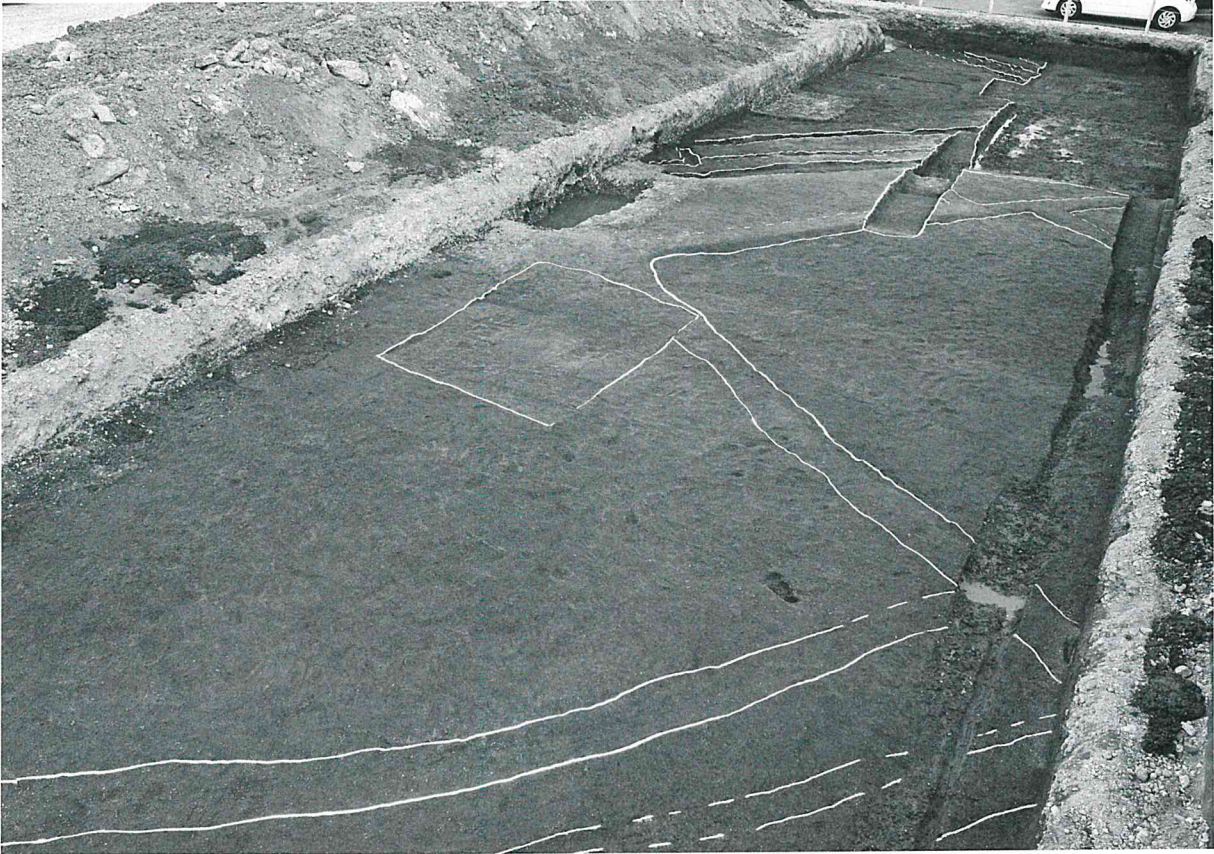
第8図 大八木町周辺の条里地割と用水路

※1971年高崎市都市計画図面に「大八木水田遺跡」「緑町四丁目遺跡」あり

写真図版



大八木換地分遺跡 遠景写真（北から）

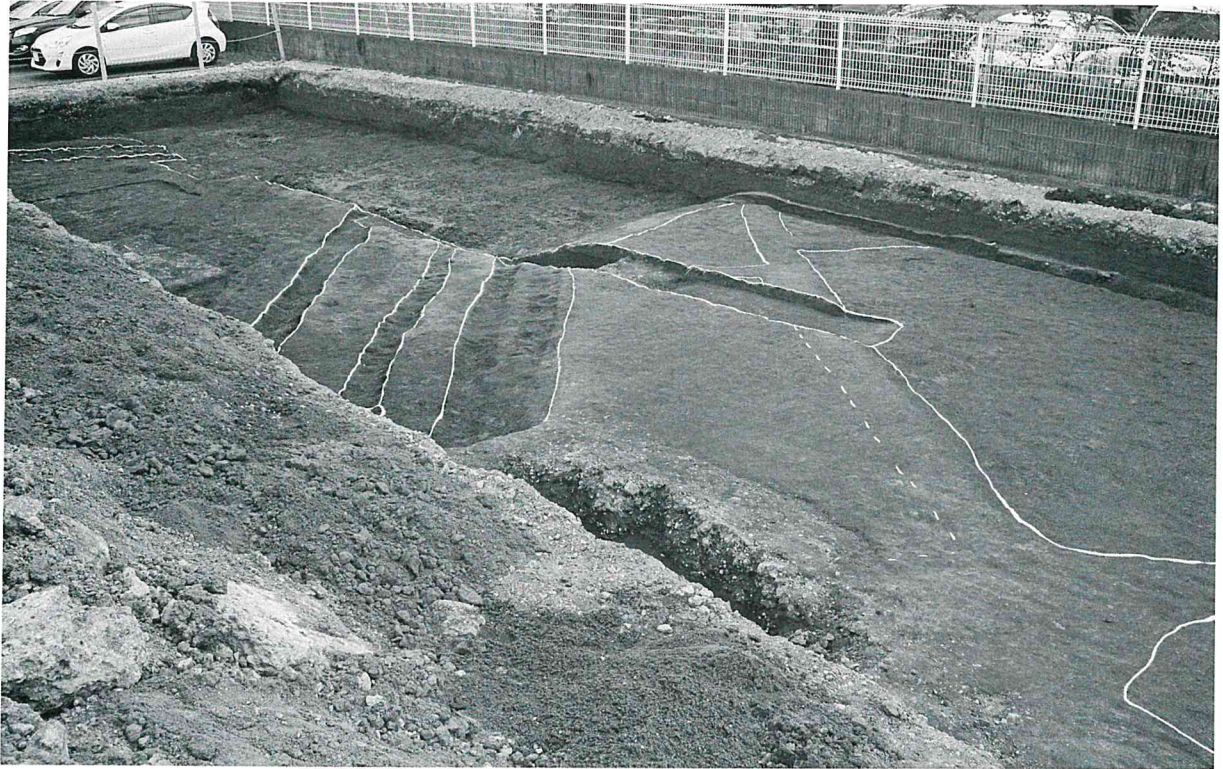


全景（南西から）

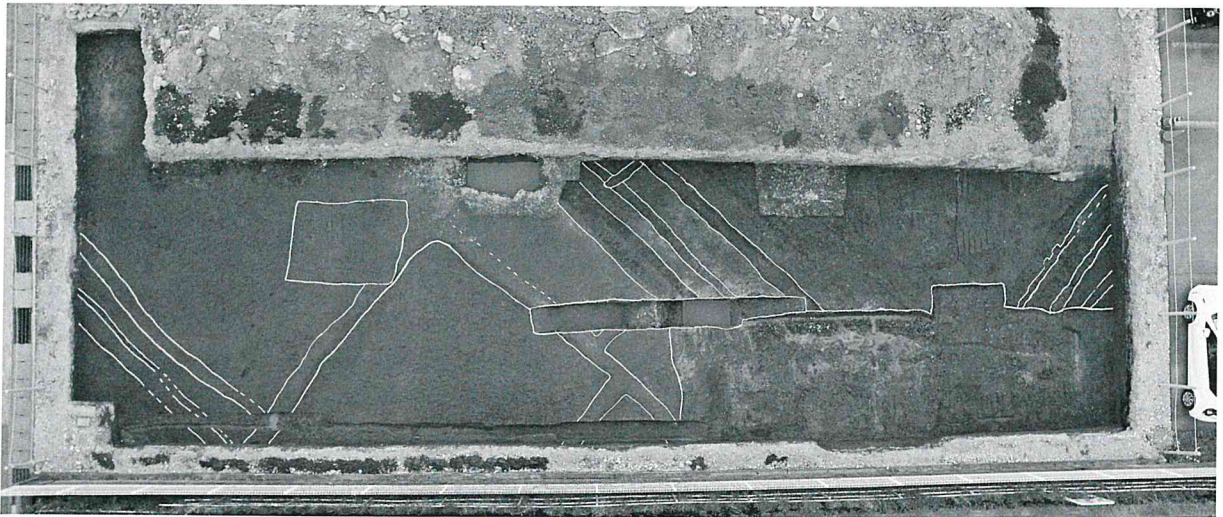


全景（北から）

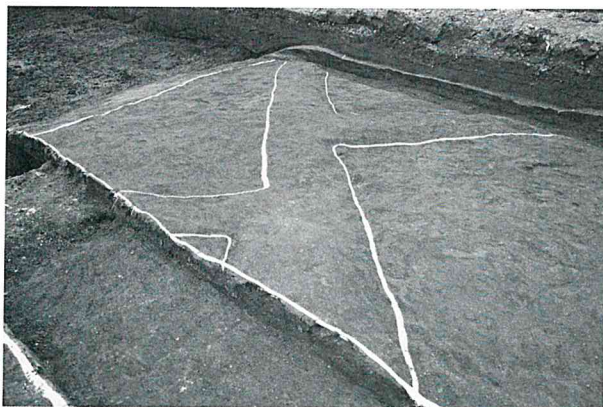
PL. 2



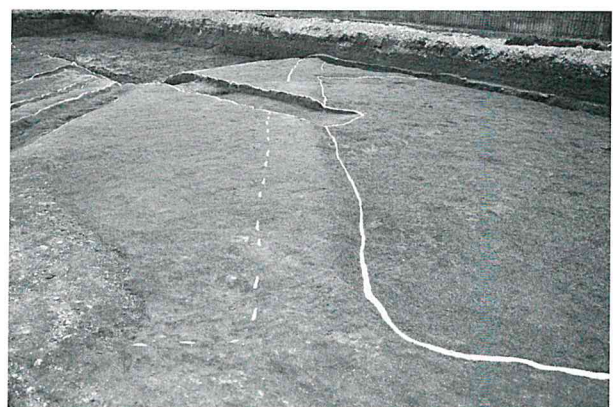
全景（北西から）



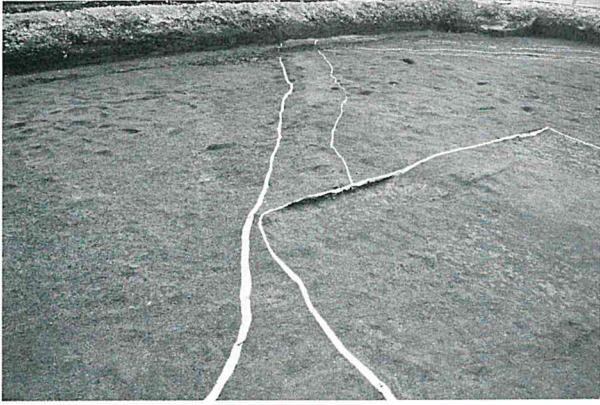
垂直写真（右上が北）



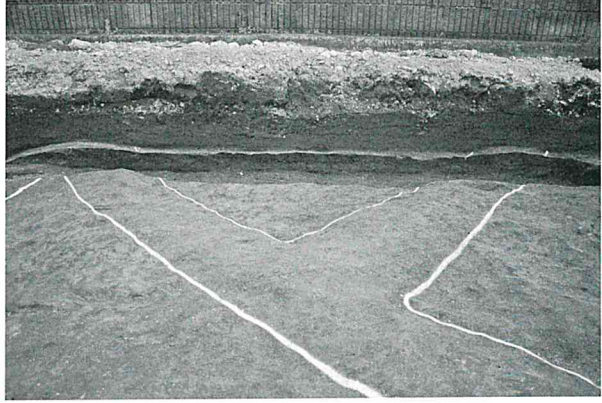
As - B層下水田 3～5号畦畔（北西から）



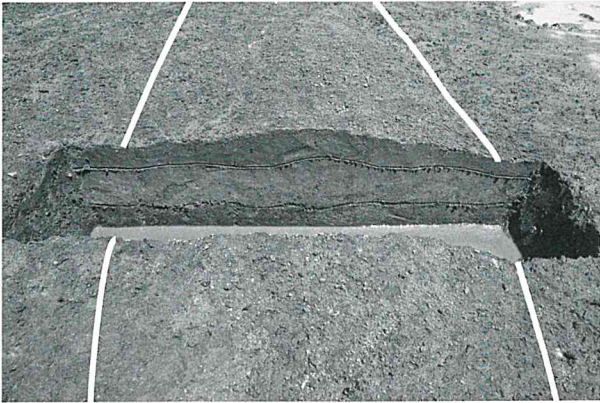
As - B層下水田 4号畦畔（北西から）



As - B 層下水田 2号畦畔 (北から)



As - B 層下水田 3・4号畦畔 (北西から)



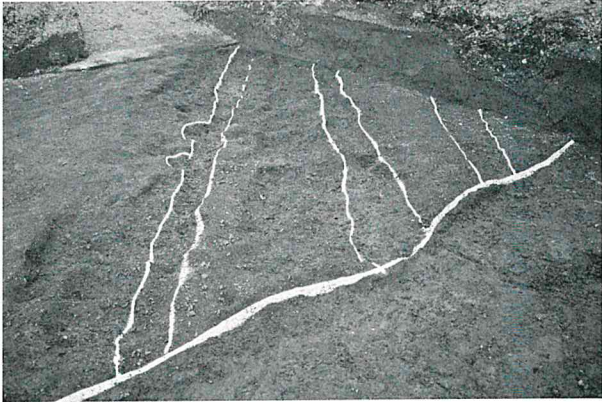
As - B 層下水田 2号畦畔断面 (南から)



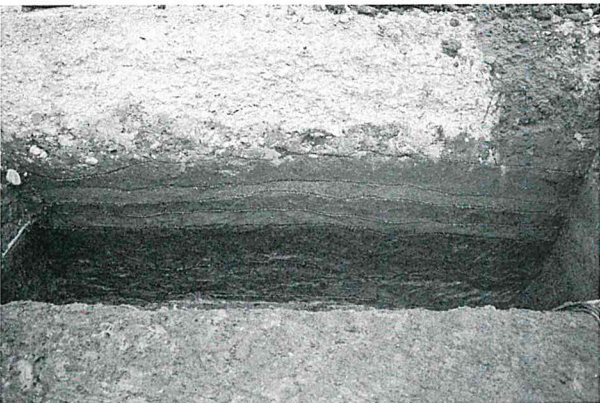
As - B 層下水田 3・4号畦畔断面 (北西から)



As - B 混入土層下 2・3号耕作痕・1号溝 (北東から)



As - B 混入土層下 4号耕作痕 (南から)



K - K' : 基本土層1 (南から)



G - G' : 基本土層3 (南から)

報告書抄録

フリガナ	オオヤギカンチブンイセキ		
書名	大八木換地分遺跡		
副書名	倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査		
巻次			
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第396集		
編著者名	矢島浩 小此木真理		
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL 027-265-1804		
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所		
発行年月日	平成29年8月31日		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
おおやぎかんちぶんいせき 大八木換地分遺跡	ぐんまけんたかざきし 群馬県高崎市 おおやぎかんちぶんいせき 大八木町字換地分 3000番地3、 3000番地4	102020	699	36° 21' 14"	139° 0' 36"	20170410 ～ 20170831	255㎡	倉庫建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大八木換地分遺跡	水田跡	A s - B 降下前 A s - B 降下以降	水田跡 1面 耕作跡 1面 溝 1条	なし	A s - B 層下の水田跡 A s - B 層降下後の耕作痕

高崎市文化財調査報告書第396集

大八木換地分遺跡

－倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

平成29年8月24日印刷

平成29年8月31日発行

編集 / 有限会社 毛野考古学研究所
発行 / 有限会社 毛野考古学研究所
印刷 / 朝日印刷工業株式会社